

## あいであ &amp; アイデア

## カラス被害の防除方法

岡山県農業共済組合連合会 福原 肇

岡山県内北東部に位置するNOSAI勝英管内は、従来、冬に多かったカラスの家畜被害が年間を通じて発生するようになり、過去3年間で約60件の被害報告があるなど、畜産農家を悩ます問題でした。被害状況や対策はさまざまですが、被害に遭った勝央町の酪農家2戸の現状と被害を少しでも軽減しようと乗り出した対策を紹介しますので参考にしてください。

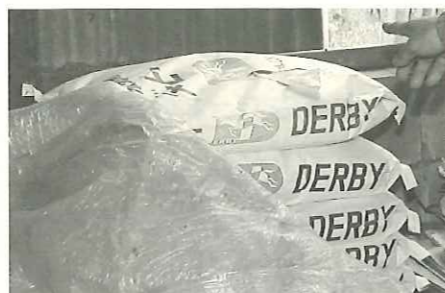
## 石原保博さん（乳用牛120頭）の対策

石原さんは、約6年前から飼料を混ぜるミキサーがカラスのエサ場となり、牛舎で乳房の血管を攻撃されるようになりました。4年前には3ヵ月連続で被害に逢い、乾乳牛1頭が発見時すでに死んでいたこともありました。このことから、カラスの家畜被害による損失を考え、数年前から牛舎にネットを張るなどし、侵入を防ぐ対策をとりました。その後も改良を重ね、現在ではほとんど被害がなくなっています。

「牛舎にネットを張ったり、飼料のミキサーに蓋をしたりと対策に乗り出した」と話す石原さん。最初は牛舎の周りにアニマルネットを張っていましたが、弛んだものを牛がぐわえて破ってしまいました。現在は支柱となる骨材とネットで100万円程度の経費を要しましたが、サシバエ防止と併用した防風ネットを張っています。

また、カラスがイタリアンサイレージのロールを破っていたことから、ここも対策しました。ブルーシートを被せた上に重石となるタイヤを置き、その上から防鳥ネットを被せました。「隙間にカラスの脚が引っかかり、嫌な印象を与えることができる」ため、効果的とのこと。

このように対策を講じることで、「以前は1日に100～200羽飛来していたカラスが、現在は堆肥の乾燥ハウスに20羽ほど来るだけ。目にするカラスは減った」と話す石原さん。ただし、自農場は減っても、地域の他の農場



カラス被害では、食べることでできないカルシウム剤も袋を破られることがある



細かい目の防風ネット。牛が届かない距離にネットを張ることがポイントだ



「ダブルクリップで血管を挟むとうまく止血でき、後肢に当たっても外れにくい」と話す石原さん

が被害に逢うことは複雑な気持ちとのことで、「絶対数を減らす対策が必要」といわれます。

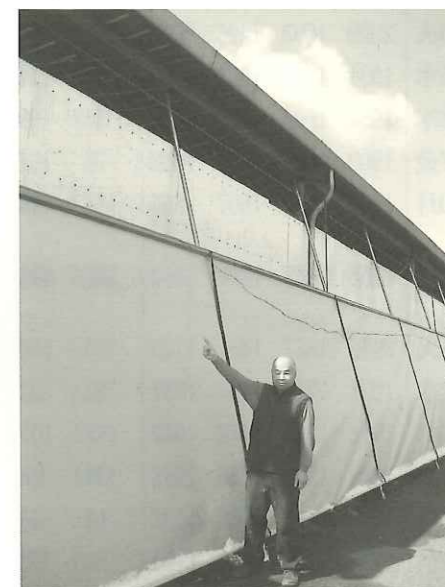
ちなみに、牛がカラスに血管を攻撃されると、勢いよく出血するため出血多量で死ぬこともあります。石原さんは獣医が到着するまでの応急的な止血方法もいろいろと試しています。最も有効であったのは、書類をとめたりする「ダブルクリップで挟むこと」とのことでした。

## 岸本一茂さん（乳用牛160頭）の対策

岸本さんも3年前から被害が増えました。これまでに約10頭が死産事故になったほか、乳房を突かれた牛の多くは乳房炎を発症しました。

対策は、侵入防止のために、牛舎の周囲にきゅうりネットやいのししネットを張りました。材料費の合計は数万円程度。きゅうりネットは1本1000円（2m×20～40m）を数本、いのししネットは1本2000円（2m×20m）を4本、ネットを通す針金も数千円で、「安価なわりには、カラスよけに役立っている」とのことです。

また、牛舎の北側と南側に巻き上げのスクリーンも自力施工で設置しました。「本来、冬の防寒対策として設置したが、カラスよけに役立っている」と話す岸本さん。材料費は、カーテンが10万円、その他数万円（単管2000円×20本など）と20万程度でした。



防寒対策の巻き上げスクリーン。この上からきゅうりネットを張るとさらに効果的である（写真の人物は岸本さん）

## さいごに

数年前までは、カラスが直接牛体を傷つけることはほとんどありませんでした。しかし最近では、乳房などの太い血管を突かれ出血多量により死亡したり、第四胃変位や帝王切開手術後の傷口を突かれ内臓損傷、あるいは睡眠中に肛門周囲を突かれ腸管損傷したり、分娩中に子牛の舌や蹄を突かれ傷になるなど直接死産事故につながる被害が多くなっています。また、二次的には乳房炎になり乳が出なくなることもあります。予期せぬ牛が駄目になることで、農家は多大な経済的損失を受けるのです。

被害に遭っている農家の多くは、大型のフリーストール牛舎など出入りが自由で人気の少ない場所を集中的に狙われています。最良の対策は、牛舎を防鳥ネットなどで完全に覆い包むことです。難しい場合は、カラスの慣れを防ぐため各種防鳥グッズなど常に新しい方法を取り入れる必要があります。農家の皆さんにはこれらのことを参考に、被害を最小限に食い止める工夫をして欲しいと思います。

（筆者：岡山県農業共済組合連合会家畜課長）

## あいであ &amp; アイデア